

2015 年度 中央大学特定課題研究費 — 研究報告書 —

所属	理工学部	身分	教授
氏名	早坂七緒		
NAME	Hayasaka, Nanao		

1. 研究課題

（和文）モデルネと可能態——ムージル、ジョイス、プルーストを中心に——

（英文）Die Moderne und Conjunktivus potentialis –Musil, Joyce und Proust

2. 研究期間

2年間

3. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600 字程度、英文 50word 程度）

（和文）

ムージルは 1936 年の講演で、目下の人間性の危機は進化の停滞によるものであり、適切な時期に行なわれるべき、諸理念への移行が行なわれなかった怠慢によるものであるとしている（愚かさについて）。その帰結である 1930 年代の現実を、ムージルは「倒錯」(Verkehrtheit)であると喝破する。モデルネの三大作家、ムージル、ジョイス、プルーストはともに第一次世界大戦後に、大戦前の世界を小説に描いた。破局以前の世界に立ち帰って、可能態で思考しようとするのが、これらモデルネの作家に共通するスタンスであると小生は考える。

これは在ローマの Alessandro Piperno (現代イタリア文学の神童)が“Proust antijuiif”において「『失われた時を求めて』は破滅に向かう世界をニヒリスティックに書きとめたものである」と規定していることに呼応する（小山尚之氏の論文による）。2016 年度の現地調査では、モデルネの作家トーマス・マンの足跡をミュンヘンで確認し、チューリヒにおいてはムージルが 1938～39 年に滞在し、これまで不明だったペンション・フォルトゥナの別棟をほぼ特定した。ジョイスが死に至る入院の直前に住んだ住居の位置も確認できた。さらにムージルが講演したリュツェウム館、その死に至るまでケアしたルジュンヌ牧師の Pfarrhaus の全容も把握できた。成果は人文研紀要に発表する。

（英文）

Robert Musil analysierte 1936 in seinem Vortrag „Über Dummheit“ die Situation der 30er Jahren, dass die gegenwärtige Krise von der Stagnation der Evolution herrührt. Die Menschheit hat versäumt, die Ideale rechtzeitig zu erneuern. Er nannte die Situation „Verkehrtheit“. Drei Meister, Musil, Joyce und Proust, beschrieben die Welt, wie sie vor dem Ausbruch des ersten Weltkriegs war. Die gemeinsame Haltung der drei Autoren ist, zurück zur ehemaligen Welt zu kommen und die Situation noch einmal in dem Conjunktivus potentialis zu denken. Dem entspricht die Behauptung von Alessandro Piperno. 2016 besuchte ich München, um Spuren von Th. Mann zu folgen, und Zürich, wo ich die Wohnräume von Musil beinahe identifiziert usw.